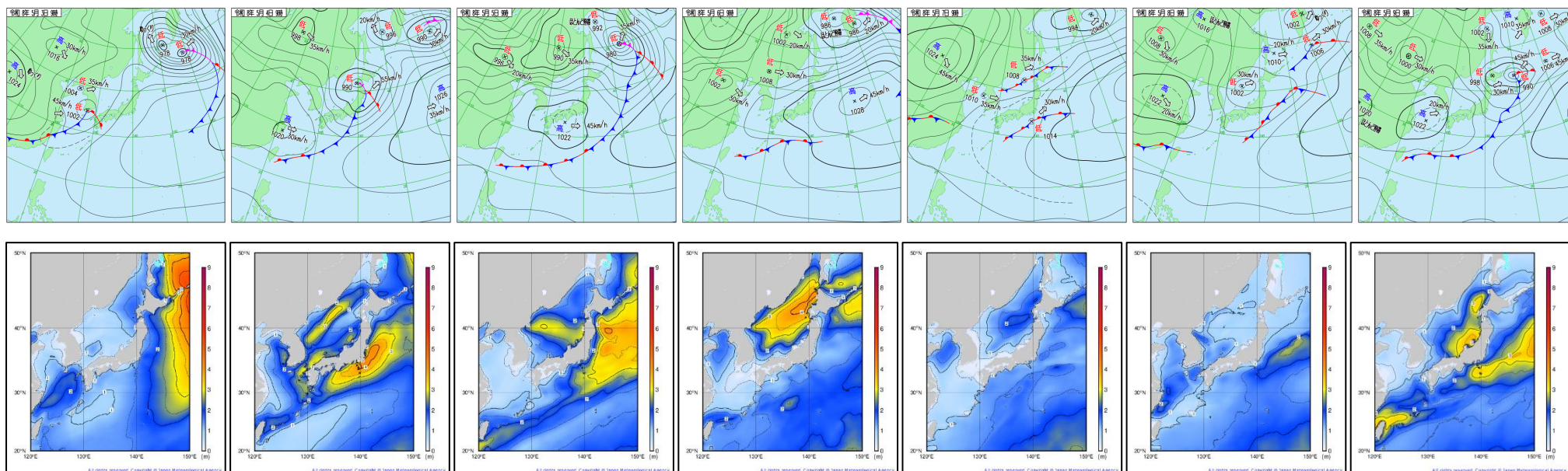


■天気図と沿岸波浪図 (5月3日~5月9日 ※毎日午前9時を掲載)

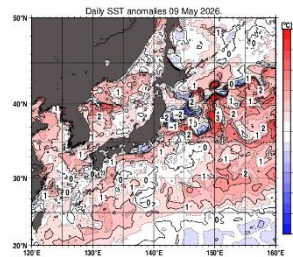


■気圧配置と波

3日、千島の東や千島近海の低気圧、前線周辺で気圧の傾きが大きくなった。日本の東や千島近海、オホーツク海でしかけた所があった。4日、前線を伴う低気圧が日本海を北東進。日本近海は波が高まり、関東近海でしかけた。5日、高気圧が日本の南を移動。前線が日本の南～東にのびた。高気圧と前線の間で気圧の傾きが大きくなり、日本海中部や日本の東で波が高まった。6日、大陸の低気圧が東進、高気圧が日本の東を移動。日本海中～北部で波が高まり、北部でしかけた。9日、前線を伴う低気圧が日本の東を北東進。再び日本近海で波が高まった。

■海面水温

日本海域の海面水温は、西部の大陸側で平年よりかなり高い海域が継続し、最大で4℃高かった。他は平年並みの海域が次第に拡大。東シナ海や南西諸島近海は平年並みの海域が継続。日本の南は平年よりやや高い海域が継続した。東海沖は平年よりやや低く、関東の南から関東の東は平年並みとなった。三陸沖は平年よりかなり低い海域が継続し、最大で4℃低かった。千島近海やオホーツク海は、平年並みの海域が継続した。



■海流の予想

黒潮は九州東岸では、引き続き離岸して流れ、足摺岬では引き続き離岸し、一時接岸する。室戸岬では引き続き接岸し、一時離岸する。潮岬では引き続き接岸し、潮岬沖を東に流れ、東海沖の最南位置は33°N、136°E付近。伊豆諸島付近では、三宅島付近を流れるようになる。房総半島では離岸と接岸を繰り返す。親潮の南限位置は41°N、144°E付近。親潮の面積は平年よりかなり小さい。対馬暖流の勢力は平年並みか平年より強い。

